



杉堂地区

天然記念物 指定へ 町内3か所の『布田川断層帯』

町内3か所の

国の文化審議会は、熊本地震で町内の杉堂・堂園・谷川地区に現れた「布田川断層帯」を国の天然記念物に指定するよう文部科学大臣に答申しました。これを機に、町では今後、これらを防災・減災および環境教育の拠点として整備などを進めていきます。

潮井水源公園内に表出した地表地震断層。長さは約8㍍、縦ずれ変位の最大値は約70㍍である。ご神木である榎の巨木を根元より倒壊させており、その威力の強大さがうかがえる。また、拝殿までの参詣道石段の横ずれ変位も併せて確認できる。地元によれば、地震発生後における「潮井水源」の湧水量は増加しているという。元来、「潮井水源」の湧水も断層に起因するものであり、「地震」と「自然の恵み」が一体関係にあることを理解することができる標本である。眼下を流れる河川は、活断層の名称にも使用されている「布田川」。



堂園地区

「堂園池」に隣接するほ場に約180㍍にわたり表出した地表地震断層。「クランク状」に見える畦や作物が、横ずれ変位の規模を視覚的に伝える。その横ずれ変位の最大値は、約2.5㍍である。この地域周辺には「大蛇伝説」が民話として残されており、今回表出した断層は、まさに「大蛇の通り道」といった様相を呈する。地元によれば、地震発生直後の「堂園池」は黒く濁ったという。有識者によれば、台地上に位置する「堂園池」が形成された背景にも、地震断層が起因するという。

【写真提供】
広島大学
名誉教授
中田高氏



谷川地区

民家宅地内に共役断層が「V字型」に表出している。狭い範囲で「V字型」に表出した地表地震断層であることから、同一視点よりそれらの分岐を確認することができる国内でも稀な標本である。家屋の眼前を横断する左横ずれ断層は、長さ約40㍍、北側沈下による縦ずれ変位の最大値が約70㍍である。宅地を袈裟懸け状に走る右横ずれ断層は、長さ約35㍍、南側沈下による縦ずれ変位の最大値は約40㍍である。左横ずれ断層は宅地西側に位置する納屋の直下に表出しており、地表地震断層が建物等構造物に及ぼす影響やそのスケールを視覚的に感じることができる。

保存と活用の目的

益城町で観測された、二度にわたる「震度7」の地震は、観測史上初であるため、地震発生直後から多くの研究者や調査機関によって、町内各所に表出した地表地震断層の調査・研究が実施されてきました。

その結果によると、確認された地表地震断層はさまざまな様相を呈し、活断層地震の研究における良好な標本であることが示されています。中でも、杉堂・堂園・谷川地区の3か所で見られる多様な断層運動の痕跡は、全国的に学術上の価値が高く、災害遺構としても大変貴重であることが認められています。

しかし、それらは時間の経過とともに、その状態や数値が変化し、また復旧・復興が進むとともに消滅、風化していくことが懸念されます。直近に発生したとされる今回と同規模の地震が、約2,000年前と想定されることを考えれば、当時は地震の痕跡を後世に残すという活動は当然あり得なかったと考えられます。よって、「平成28年熊本地震」の規模やその痕跡を後世へ引き継ぎ、防災教育や減災教育、また環境教育への活用に寄与することが、私たちの責務であると考え保存に至りました。

今後は、これらの保存管理と活用計画について、有識者による専門委員会を設置し、学術的かつ多面的な保存・活用方法を検討し、防災・減災教育や環境教育の拠点となるべく整備していきたいと考えています。

益城町教育委員会生涯学習課生涯学習係 ☎ 286 - 3337

指定までの経過

日付	経過
H28 5.10	文化庁・広島大学・熊本県文化課・益城町教育委員会による現地調査
5.27	日本活断層学会より要望書提出（谷川・杉堂地区）
5.31	益城町文化財保護委員会答申（谷川・杉堂地区）
6. 6	杉堂地区の同意書受領
6.13	谷川地区の同意書受領
6.14	文化庁記念物課技官・県文化課による町長への説明
6.17	益城町教育委員会告示、指定書交付（谷川・杉堂地区）
8.24	日本活断層学会より要望書提出（堂園地区）
H29 1.27	益城町文化財保護委員会答申（堂園地区）
3.31	堂園地区指定に係る意見交換会実施
4.26	堂園地区の同意書受領
6. 7	益城町教育委員会告示、指定書交付（堂園地区）
11.17	国天然記念物答申